

黒毛和種における早期若齢肥育技術の開発

近年、全国的な子牛市場価格の高騰による肥育素牛導入費の増加、および輸入飼料価格の高止まり等により肥育農家の経営は厳しい状況にあります。そこで、秋田県畜産試験場では、肥育農家における牛舎の回転率の向上や生産費の削減を実現するために、枝肉重量や脂肪交雑の成績を維持したまま現行の肥育出荷月齢を4か月程度前倒しする肥育技術を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 試験区は、早期肥育区(8ヵ月齢から24~26ヵ月齢までの16~18ヵ月間肥育)及び慣行肥育区(10ヵ月齢から28~30ヵ月齢まで18~20ヵ月間肥育)の2区分で、各区で4頭を供試しました。肥育期間中は、濃厚飼料(肥育用前期・後期飼料、ビタミンA含有後期飼料)、粗飼料(乾草、稲わら)、補助飼料(大豆粕)などの飼料を給与しました。早期肥育区への飼料給与は、当場の慣行肥育より2ヵ月前倒しして実施しました。
2. 肥育期間における体重は、早期肥育区で肥育前期の一日当たりの平均増体量が有意に大きく(P<0.05)、肥育中期から後期では両区で同等の発育でした。枝肉成績は両区で有意差がなく、早期肥育区でロース芯面積、脂肪交雑の成績が良く、慣行肥育と同等の成績が得られました。
3. 本技術により、肥育期間における濃厚飼料給与量を約680kg減らすことができるため、飼料費を1頭当たり約37,000円減らすことができました。



写真1 早期肥育区の枝肉

表1 枝肉成績

試験区	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	BMSNo.
早期肥育	25.6 ± 0.8	472.8 ± 26.9	65.3 ± 5.5	9.3 ± 2.8
慣行肥育	30.3 ± 1.2	481.1 ± 46.3	60.5 ± 9.3	7.5 ± 1.3
平均値±標準偏差				

☆活用面での留意点

1. 早期肥育は慣行肥育に比べ、肉色やきめ・締まりの評価が低い枝肉が散見されましたので留意して下さい。
2. 詳しくは秋田県畜産試験場 飼料・家畜研究部 肉牛担当 佐々木航弥 (Tel 0187-72-2511) に問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)